

〔記事〕

中学生を対象とした看護職の職業紹介

祥雲直樹¹⁾

1) 東北文化学園大学医療福祉学部看護学科

要旨

少子高齢化を背景に今後も看護師の需要は増え続けている。そのような中で東北文化学園大学医療福祉学部看護学科では、高校生等、就学前の生徒を対象に、模擬講義の実践や看護師の業務内容の紹介を行っている。今回、中学生を対象に看護師の職業紹介の講話を行う機会が得られた。講話の内容としては、就業の実際や、資格を取得する方法、仕事についてのやりがい、について伝達した。講話を聞いた中学生からは、看護師の就業場が多様化していることを知った、看護師は女性が就業する仕事、という意見が聞かれた。看護師の仕事は医療施設で勤務する、女性の仕事という印象を持たれていることが分かった。今後、看護師の供給を増やすためには、早い時期から多様化する看護師の業務の実態を理解してもらうことが必要であると考えられる。

【キーワード】 模擬講義、中学生、看護学生

I. はじめに

現在日本は高齢化率 28.1%、年少人口 12.2% の少子高齢社会にある¹⁾。人口に対する看護職の比率をみると、人口 10 万に対し、2006 年時点で 635.5 人であったものが、2016 年では 905.5 人まで向上している²⁾。しかし、看護職の確保については 2025 年までに約 200 万人が必要となることが報告³⁾されており、2016 年時点の看護職の総数が 166 万人であることから、看護職が十分に確保されているとはいえない。

今後も安定的に看護職者を確保していくためには、養成校の学生数の維持が必要であると考えられる。東北文化学園大学医療福祉学部看護学科では、就学前の高校生等を対象に模擬講義を実践することで、看護学科の講義内容や、看護師の業務内容について伝達を行っている。今回は中学生を対象に模擬講義を実施する機会を得たことから、その実践内容を報告する。

II. 実践内容

対象：

A 市内の中学校に所属する中学生の男女 44 名。

方法：

看護職の職業紹介として、40 分の講話を行った。

内容：

事前に郵送された質問紙について以下の項目について回答依頼があった。

- ① 出身地
- ② 中学生の頃に考えていたこと
- ③ どのような中学生であったか
- ④ 職業に必要な学歴
- ⑤ 養成校卒業後、就職するまでの過程
- ⑥ 職歴
- ⑦ 中学生へのメッセージ

当日は A 市内の中学生 44 名を対象に、他職種
の講師とともに職業紹介の講話を行った。職業紹介として依頼された内容として、「自分の職業について」、「苦労話」、「やりがい」、「進路選択」、

「その職業に就くための方法」、「生徒からの質疑応答」であった。講師は40分の講話を行ったのち、学生から質疑応答を受ける、という内容であった。

後日、主催者より、参加した中学生が講話を聞いた感想を記載した用紙が講師に届けられた。

Ⅲ. 参加した中学生の感想

参加した中学生のアンケートでは以下のような意見があった。

- ・看護師は病院で働いているイメージがあった。
- ・訪問や教育などの仕事があることを知った。
- ・看護職が様々な場所で働いていることを知った。
- ・看護師になるために必要なことを学ぶことができた。
- ・男性も増えてきていることが分かって少し興味がわいた。
- ・誰かを助ける仕事をしたいと思うようになった。
- ・どのような仕事か理解しているつもりでも、実際にはわからないことが多かった。
- ・看護師は人と向き合う仕事だと思った。
- ・違う分野で働く人たちが同じ1つの病院で働いているということを初めてちゃんと知れた。
- ・やりがいや苦勞についての話は参考になった。

アンケート結果を通して、「看護師は病院で働いているイメージであった」、「看護師の就業の場が多様化していることを知らなかった」、「仕事内容を把握していなかった」、「看護師は女性の仕事と認識していた」、という意見が多く見られた。また、やりがいについて話を聞くことで興味をもったという意見も見られた。

Ⅳ. 今後の展望

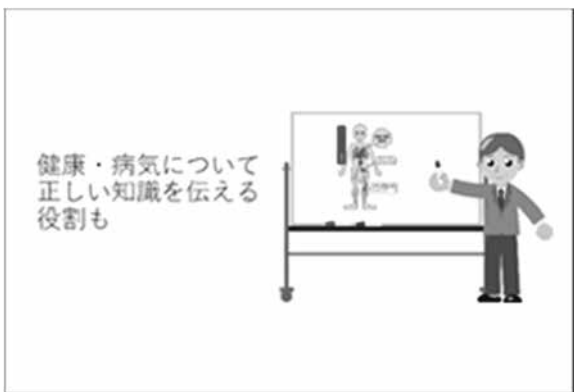
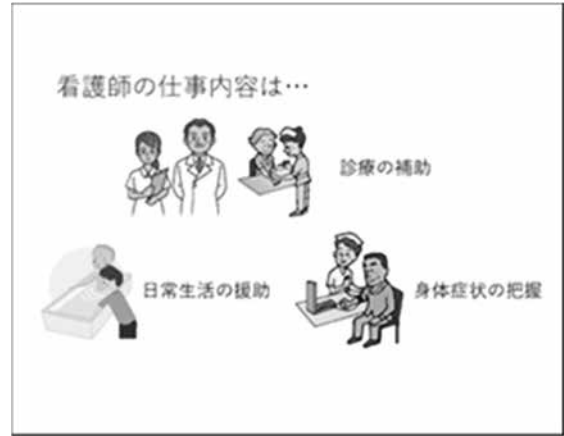
今回参加した中学生は、看護職の就業場所が多様化していることを認識していなかったことか

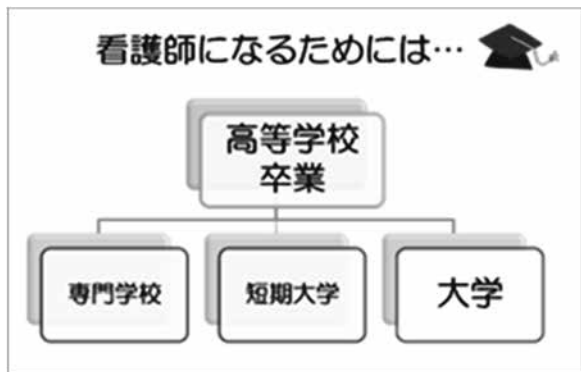
ら、看護職の仕事に興味を持ってもらうためには、一般的に認知されている病棟勤務以外での業務について紹介することが有効であると考ええる。特に看護師の業務を通じて感じるやりがいについて話をするすることで、より興味を持ってもらうことができるのではないかと考える。

看護師の仕事について、男性の看護師が増えてきている現状はあるが、中学生からはいまだに女性の仕事であるという印象を持たれていた。中学生の時点では、男子学生は看護師を選択できる職業としての認識が薄いと考えられることから、早くから男性看護師の存在を認識してもらうことで、看護師を目指す男性を増やすことができると考える。

Ⅴ. 文献

- 1) 内閣府：高齢社会白書，高齢化の状況，https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/html/zenbun/s1_1_1.html（閲覧日 2019年11月5日）
- 2) 日本看護協会：看護関係統計資料集，就業状況 <https://www.nurse.or.jp/home/statistics/pdf/toukei01.pdf>（閲覧日 2019年11月5日）
- 3) 厚生労働省：看護職員需給見通しに関する検討会，看護職員確保対策について，https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000107369_11.pdf（閲覧日 2019年11月5日）





苦労話

- 専門学校、大学では他の分野より学ばなければいけないことが多い
- 専門知識が求められる
- 夜勤が多いのが負担
- 人が辛い思いをしている場面にも立ち会わなければいけない

- 基本的に兄弟の少ない環境なので
- 休みが他の職種の人と合わない



やりがい

- 病気が元気になる過程がみえる
- 病気の人や弱っている人の役に立ててる実感がある
- 人から感謝される仕事
- 多くの人の人生に寄り添うことができ、学びが多い
- 自身が努力によって得られた知識や技術等が、結果に結びつく (人の役に立つ)

- 収入が安定してる
- 転職に困らない

